



院内感染対策ニュース

第74号 2019年10月16日
院内感染対策委員会

そろそろインフルエンザシーズン到来 皆さん準備できていますか？

10月も半ばになりずいぶん寒くなってきました。そうすると冬の感染症が流行期に入ります。今年は8月に首都圏でインフルエンザによる学級閉鎖があったり、すでに流行期に入っている地域もあります。昨年度はあちこちでインフルエンザの集団感染が発生しました。今年は当院でも集団発生のないようしっかり対策を実施しなければなりません。今回は流行期に入る**インフルエンザ**について取り上げます。

インフルエンザの特徴・治療 感染経路

インフルエンザウイルスによる感染症。**主に流行するのはA型とB型。**

A型から流行し2～3月B型が流行してきます。症状は発熱・咳・倦怠感・咽頭痛があり、発熱後約1週間で治癒。

検査は迅速検査で30分程度で結果が出ます。陽性の場合にはインフルエンザと確定。抗ウイルス薬の内服薬・吸入薬・点滴のいずれかで治療します。

感染経路は飛沫感染。くしゃみや咳に含まれるウイルスを吸い込んだり、ウイルスが付着した場所に触れて手から手にウイルスが移動して体内に入る場合もあるといわれています。



インフルエンザの発症から治癒までの経過

インフルエンザウイルスが体内に入ると…
飛沫感染：咳やくしゃみから体内に入る。
またはウイルスが付着した手から体内に入る。
38度以上の発熱・頭痛・咽頭痛・鼻汁・咳
関節痛など出現など

簡易キット
発熱後およそ12時間以上経過してから迅速検査を実施

検査陽性⇒インフルエンザ確定。
内服・点滴・吸入のいずれかで
治療。発熱翌日～解熱して2日
経ったら学校・仕事に行ってもよし

予防方法は？

普段から**手洗い**を習慣化しましょう。流行期は人込みに行く場合は**マスクの着用**。**ワクチン接種**もお勧めします。

咳や鼻水、くしゃみなどの感冒症状がある場合も人ごみは避けましょう。誰かにうつしてしまうかもしれません。病院受診時は必ずマスク着用。発熱している場合はいつか熱が出ているか、病院職員に伝えて下さいね。



熱が出たらどうするの？

発熱後およそ12時間以上経過しないと検査で陽性とならないため、発熱後は、自宅待機で仕事・学校は行かないで下さい。出勤や登校・登園することにより職場や学校でインフルエンザが広がる危険があります。発熱してすぐに検査をしても陰性となる可能性があるためついかもしれませんが時間を置いて近医に受診しましょう。

いつまで休むの？

インフルエンザは**原則発熱翌日から5日を経過かつ解熱後2日経過するまでは学校や仕事を休む**必要があります**（当院職員はこれを適応）**。

感染拡大を防止するために必要なことですのでご理解の程よろしくをお願いします。

インフルエンザの治療薬

インフルエンザの薬は色々あります。

内服：1日2回5日間 吸入：1回のみ

点滴：1日1回（場合により数日投与あり）

予防的に服用する場合は原則内服薬が吸入となり服用量が異なる場合があります。予防的に服用する場合は保険適応外で自費となります。



インフルエンザワクチンについて

ワクチンは接種後、約2週間で抗体を獲得し、5ヶ月程度効果が持続するといわれています。しかし、ワクチンはインフルエンザにならないためのものではなく、**症状を軽くするものです。**

ワクチンを接種しても、人ごみを避け、手洗い・マスク着用を心がけましょう。



* 入院患者さんがインフルエンザが発生した場合、感染拡大防止のため個室に移動、または医師の判断で一旦退院し、改めて入院していただくことがあります。面会の方もマスク着用、手指消毒、必要時以外の面会は極力ご遠慮下さい。
11月頃より発熱外来を開始しますので発熱している方は総合案内までお知らせ下さい。マスク着用をお願いします。
感染拡大防止のためご協力をお願い致します。



次回もお楽しみに～

